

## アカガシラカラスバト

アカガシラカラスバトは小笠原諸島でのみ見ることができる。頭部は赤紫色、頸部は虹色がかった緑色で、体を覆う羽は黒っぽく光沢がある。小笠原固有の他の動物と同様、陸上に住む天敵がないまま進化してきたため、人間や他の動物に対する先天的な恐怖心を備えていない。人間は 1800 年代に島に移住してきた際、この鳥にとっての主な天敵となるネコやネズミなどの侵略種を一緒に持ち込み、アカガシラカラスバトを食料として捕らえていた可能性がある。アカガシラカラスバトは絶滅危惧 IA 類に分類されており、2005 年には小笠原諸島全体での推定生息数がわずか 30~40 羽であった。それ以来、保護に取り組んできたことで個体数が増加し、2018 年時点では約 600 羽が報告されている。最も成果を上げているプログラムのひとつが、島に住むノネコの捕獲である。捕獲されたネコは去勢され、里親に出すために東京都獣医師会の運営する動物保護施設に送られている。

アカガシラカラスバトは父島、母島、兄島、弟島の間を移動している。父島にはフェンスで囲ったサンクチュアリが設けられ、この鳥を捕食するおそれのあるノネコなどの侵略種が立ち入れないようにしている。また、鳥たちをモニタリングするための見回りも行われている。サンクチュアリを訪れるには、入域許可を受けた認定ガイドの同行が必要だ。この鳥は個体数が回復したため、島の周辺で以前よりもよく見かけるようになり、サンクチュアリの外でも見ることができる。しかし自分で見つけるのは難しい場合があるため、観光協会では、鳥たちを見つけて観察する際に怖がらせることのないよう、十分な知識を持ったガイドを雇うよう推奨している。